



がん患者さんのための ハンドブック

福井大学医学部附属病院



がん相談窓口

がんと診断を受けて様々な心配を抱えておられる、
患者さんやご家族の方へ

がんに関する様々なことをどこに相談したらよいのか分からない…
少しでも治療や生活の中での不安を解決するお手伝いができればとの思いで、
この冊子をまとめました。
少しでも患者さんやご家族の方に寄り添った
支援ができればと思っています。

目次

がん相談窓口

がん相談支援センター／患者・家族サロン「やわらぎ」	01
仕事と治療の両立	02
高額療養費制度	03
アピアランスケア（外見のケア）	04
薬店・理美容室（ケア帽子・ウィッグのご案内）	05
小児がん相談	06
AYA世代への支援	07
サロン／がんに関する催し・イベント	08

患者会

がん体験者の会「みのり会」	09
---------------	----

がんの治療にかかわる部門

緩和ケア	10
通院治療センター	12
リンパ浮腫ケア外来	13
小児がん経験者のための長期フォローアップ外来	14
生殖サポート外来	15
がんゲノム外来／薬剤治療	16
放射線治療	17
がん性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注法（CART）について	18

治療中の生活

がん治療と栄養	19
がん患者さんのリハビリテーション	20

がん相談支援センター

がんと診断されたご本人やご家族のほとんどの
方が、それぞれにお悩みや不安をもっておられます。
その解決方法の一つとして、がん相談支援センター
にご相談ください。診断や治療について判断するところ
ではありませんが、一緒に考え、不安を解消するため
のお手伝いをします。



がん相談支援センターにはパソコン・プリンターが設置してあります。インター
ネットによりがんに関する情報を得ることができます。

がん相談
支援センターで
相談できること

- 治療のこと
- 希少がんのこと
- 療養生活、制度やサービス
- 今の気持ち、不安や心配など
- 家族とのかかわり
- 医療者とのかわり
- AYA世代（15～30歳代）のがんのこと
- 妊よう性、性に関すること

対応日時 毎週月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）8:30～17:00

お問合せ がん相談支援センター ☎0776-61-3111（代表）
※「がん相談をお願いします」とお伝えください

無料・予約不要
直接お越しただいても
かまいません

患者・家族サロン「やわらぎ」

サロン「やわらぎ」では、病気の情報の収集、病気に関する相談、患者さんや
ご家族が交流することができます。訪れた方の気持ちが少し軽くなったり、元気が少し
充電できる場所となるように開設しております。

がんに関連した冊子や書籍を設置し、ウィッグの見本も展示しています。



場所は裏表紙のMapをご覧ください

仕事と治療の両立

メディカルソーシャルワーカーとがん相談看護師が両立支援を担当しています。福井県のハローワークと連携することで、病状、通院状況などを考慮した求人を探すお手伝いをいたします。求人以外でも、福井産業保健総合支援センターと連携し、治療と仕事を両立できるよう相談会を実施しています。お気軽にご相談ください。

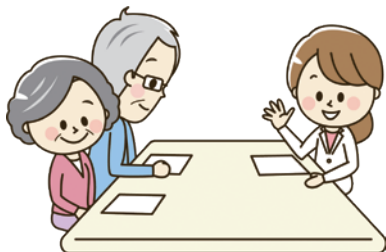
ご相談内容

- 退職や解雇に関すること(退職を促された)
- 労働条件に関すること(復職したら賃金を切り下げられた)
- 休職・復職に関すること(傷病手当てについて)
- 雇用保険に関すること(失業給付の受給)
- 年金制度(手続き等)に関すること(障害年金・保険料の減免制度)

日 時	●毎月第1金曜日(祝日・年末年始を除く) 14:00～17:00(福井産業保健総合支援センター 両立支援専門員担当)
	●毎月第4木曜日(祝日・年末年始を除く) 13:30～15:00(ハローワーク福井専門援助部門 担当) ※ 完全予約制 お問い合わせください

場 所 患者・家族サロン「やわらぎ」

お問合せ 福井大学医学部附属病院 ☎0776-61-3111(代表)
「両立支援相談窓口をお願いします」とお伝えください。



高額療養費制度

高額療養費制度とは

医療機関等で支払った額が、ひと月(月の初めから終わりまで)で上限額を超えた場合に、その超えた金額が支給される制度です。入院時の食費負担や差額ベッド代等は含まれません。上限額は、年齢や所得によって異なります。70歳以上の方には、外来だけの上限額も設けられています。

限度額適用認定証について

医療費が高額になり、ひと月の自己負担額が上限額を上回ることがあらかじめわかっている場合には、「限度額適用認定証」(住民税非課税世帯の方は「限度額適用・標準負担額減額認定証」)の手続きを事前に行うことで、医療機関等の窓口での支払額そのものを、ひと月の上限額までに抑えることができます。手続き窓口は、加入している公的医療保険です。

オンライン資格確認について

2023年4月から保険医療機関・薬局にオンライン資格確認の導入が原則として義務付けられました。導入している医療機関等では、保険証またはマイナンバーカードで本人確認ができれば、自動的に医療機関等での支払額を自己負担の上限額までとすることができるようになりました。事前の申請手続きも限度額適用認定証の提示も不要です。

福井大学医学部附属病院では、2023年2月から導入しています。

高額療養費制度や介護保険といった社会保障制度や在宅療養などの社会福祉については、院内の医療ソーシャルワーカーにご相談ください。ご相談を希望する場合は医療者にお声かけください。



アピランスケア（外見のケア）

頭皮ケア・ウィッグ相談会

2～3社のウィッグメーカーの方がいらっしゃいます。ウィッグの試着をしたり、脱毛・ウィッグに関する困りごとについて相談することができます。

やわらぎには、複数のウィッグパンフレットやウィッグの見本をいくつか設置しております。相談日以外でもがん専門相談員がお話を伺い、一緒にケア方法などについて考えます。

日 時 毎月第2水曜日（祝日・年末年始を除く） 14:00～15:00

場 所 患者・家族サロン「やわらぎ」



タオルケア帽子

ボランティアの方から手作りのタオルケア帽子を寄付していただいております。やわらぎと通院治療センターに設置しておりますので、ご自由に持ち帰っていただき、ご活用ください。

おすすめポイント

- ・通気性、汗の吸収力が良い◎
- ・抜けはじめた髪の毛が散らばらない
- ・気軽に洗濯ができる
- ・色味や柄の種類が豊富



がん患者アピランスサポート事業

福井県内の各市町では、がん患者さんの就労や社会参加を応援し、療養生活の質がよりよいものになるように、ウィッグ（かつら）など補整具の購入費用の一部について助成を行っています。実施している市町は福井県のホームページで確認することができます。詳細についてがん相談支援センターにお尋ねください。

薬店・理美容室

院内の薬店、理美容室ではケア帽子やウィッグを豊富に揃えております。経験豊富なスタッフがお待ちしております。



ケア帽子のご案内

薬店

☎0776-61-1785（内線：3840）

営業時間：9:00～16:00

Point

デリケートな頭皮をまもるため、素材はもちろん生地の手厚みや伸縮性にもこだわったケア帽子をご用意しています。



ウィッグのご案内

理美容 OASIS

☎0776-63-5546（内線：3845）

営業時間：9:00～18:00（最終受付 17:00）

Point

個室がございますので、人目を気にすることなくウィッグ等をお試しいただけます。また、ご希望に応じて理美容師がアドバイスいたします。

場所は裏表紙のMapをご覧ください

※営業時間は変更する場合がございますのでお問い合わせください。

小児がん相談

当院は小児がん拠点病院の連携病院に指定されている施設です。小児がんは子どもの成長発達途上に発症します。小児がんの治療は、疾患にもよりますが、半年から1年と長い入院生活を送ることになります。子どもは様々な制限がある入院生活の中でも治療をしながら成長発達していきます。病気や治療のことだけでなく、友人関係、復学や進学など学校の事、就職や結婚など将来の事など成長に伴い不安の内容も変化していくため、一人ひとりに合わせた支援が必要です。

治療が始まり、長い入院生活を送る中で、抗がん剤治療の副作用、食事制限、環境の変化、きょうだい児への対応など様々な悩みや不安がでてきます。そして、治療が無事に終わり、外来通院になっても、晩期合併症や再発のことなど不安は尽きません。

小児看護専門看護師、がん相談員、医師、院内学級、ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士など多職種で連携し、小児がんのお子様を取り巻くすべての方の様々な相談を支援します。



AYA世代への支援

AYA世代とは、15歳から39歳までのAdolescent and Young Adult(思春期・若年成人期)の世代のことを言い、頭文字AYAで「アヤ」と読みます。AYA世代の患者さんは、学校、就職、結婚、出産など様々なライフイベントを迎える時期に、診断や治療を行うことになります。

A世代、つまり思春期世代(主に15-19歳)では、がんと診断され治療が始まることによって、今までの学校生活や部活動、友人関係などに変化が生じます。安心して治療に専念しながら、できる限り自分らしく生活するため、入院中も学業が継続できるような方法を一緒に考えます。



YA世代、つまり若年成人世代(主に20-39歳)では、就労、恋愛、結婚、出産などのライフイベントが多くあります。治療と就学・就労の両立、治療と妊娠や出産・育児について悩まれる方もおられます。治療に専念できるよう不安な内容を一緒に考え乗り越えていけるように支援します。

AYA世代のがんは、成人のがんに比べて情報が少なく見つけることが難しく、やわらぎには、AYA世代に向けた患者会や情報収集サイト等に関するリーフレットを設置しています。



サロン

患者さん・ご家族が交流できるようにサロンを開催しています。患者さんやそのご家族が悩みや体験などについて語りあう場となっています。

AYAサロン

日 時	不定期開催 ※開催の案内をやわらぎで掲示します。
場 所	患者・家族サロン「やわらぎ」
対 象	AYA世代のがん患者さん

血液疾患患者サロン フレンド

日 時	不定期開催 ※開催の案内をやわらぎで掲示します。
場 所	患者・家族サロン「やわらぎ」
対 象	血液疾患の患者さん

がんに関する 催し・イベント

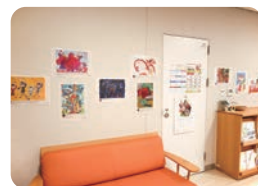
やわらぎでは、患者さんの作品を展示したり、がん征圧月間や国際小児がんデーに合わせてイベントを開催したりしています。サロンやイベントの案内は随時やわらぎに掲示しています。



がん征圧月間イベント



ゴールドリボンツリーイベント



がん体験者の会「みのり会」

「がん」と告知された時、つらい治療を受けている時、この先どうなっていくのだろうという先の見えない不安やつらさは皆さん常に抱えているのではないのでしょうか。他のがんの人たちはどんな思いでいるのだろう、話をしたい、聴いてみたいという患者さん達の声から生まれたのが、がん体験者の会「みのり会」です。希望をもって生き生きとした“実り”ある生活をしたいという思いを込め、通院している病院やがん種は問わず、がん患者さんやご家族の方、がんで亡くされた遺族の方など様々な方を対象に活動をしています。



一度覗いてみたいという患者・家族の方も多く参加されています。会員数は医療者も含め50名前後で、「みのり会」会員を中心に当院の職員、看護学科教員が協力して運営しています（事務局は福井大学医学部看護学科）。

会員同士の交流や情報交換をメインにした定例会や親睦会、リレー・フォー・ライフへの参加、さらに社会への情報発信として講演会やセミナー・シンポジウムへの参加、FFJCP（日本がん患者会フォーラム）への参加と活動発表、大学で看護学生への体験談の講義などを通して、がん患者力の向上やがん患者さんご家族の生活の質の維持・向上を目指しています。

是非、参加してみたいという方はご連絡ください。

会員からのメッセージ

- ・繋がりを深め、広げたい。
- ・いろいろながん患者さんが、立場が違うもの同士で和気あいあいできて良いです。
- ・ほっとできるひと時をありがとうございます。
- ・会に参加するだけで気持ちが軽くなります。
- ・今後も同様に、そして発展することを望みます。
- ・入会して長いですが、「卒業」しなくていいですね。楽しく気楽な仲間がいて居心地がよいです。
- ・さあ、くじけず負けず前を向いて歩こう！
- ・心に平安を保ちつつ、病魔に打ち勝ち、いつまでも健やかであるように。（アンケートより一部抜粋）

対 象 全がん患者とそのご家族

お問合せ 事務局〈福井大学医学部看護学科臨床看護学分野 ☎0776-61-3111(代)〉
もしくはがん相談支援センター

～いつでもどこでも、「あなたらしく」を支える～

緩和ケア

緩和ケアとは

「緩和ケア」は、特別なものではなく、がんと診断された時から、手術、抗がん剤、放射線治療などの積極的治療と並行して行われるものです。

がんになると、痛みや倦怠感などの体のつらさ、不安や気持ちの落ち込みなど心のつらさ、経済的負担や仕事の問題など社会的なつらさと様々な苦痛が生じることがあります。診断後早期から、薬物療法や精神的ケアなどでそれぞれの苦痛に対処するだけでなく、病気の理解を助け、より本人の希望に沿った治療を選択するサポートも行います。緩和ケアは、患者さんだけでなくご家族も対象です。

緩和ケアチーム

当院の緩和ケアチームは、医師、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士、MSW、心理士等、多職種で構成されています。患者さんご家族の様々な苦痛に対応できる様、日々活動しています。週1回のカンファレンスで情報共有し、毎日入院患者さんの元へ回診に伺います。

「つらい症状があるけれど、誰に相談したらいいかわからない。」そんな時は、主治医や担当看護師を通じて、緩和ケアチームにご相談ください。

対 象 当院に入院中・通院中の患者さん

お問合せ 主治医、看護師を通じてお問い合わせください



緩和ケアチーム

緩和ケア外来

がんと診断された時から、病気の時期に関わらず体や心のつらさを和らげるための支援を行います。患者さんを日々支えているご家族のケアも行います。

緩和ケアを専門とする医師だけでなく、がん関連の資格を有した看護師が同席し、医師に話にくい内容も気軽に相談して頂けます。



外来診察日 毎週月曜日～金曜日 午前中〈完全予約制〉

緩和ケア病床

A棟南7階病棟に、積極的症狀緩和を目的とした緩和ケア病床があります。病床にはご家族が付き添う畳スペース（和室の場合）や簡易台所もあり、症状が緩和された状態でご家族とゆっくり療養したい場合などに利用いただけます。

対象は積極的治療を行っていない当院かかりつけの患者さんになります。主科と緩和ケアチームが連携して症状緩和を行い、希望があれば状態が落ち着いた後にご自宅で療養できるよう退院支援も行います。



通院治療センター

通院治療センターは、通院する患者さんが、がん薬物療法（抗がん剤の点滴・注射によるがん治療）を受ける部門です。通院で治療を行うことで、仕事や家事、通学、趣味など自宅での生活を続けながら治療することができます。



また、普段通り過ごすことで、筋力の衰えを防ぎ、食事でも体調に合わせて食べやすいものを食べることができ、体力の維持につながります。一方、治療による副作用の対応が心配されるのではないのでしょうか。そこでセンターでは、薬物療法に詳しい医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、検査技師、MSWなどの多職種が協働し、薬剤の調整、治療や生活における心配事や副作用に対する相談を行っています。

センターは、快適な治療環境を提供するため、一般外来処置室と異なり明るい、落ち着いた内装とし、ゆったりとした空間が確保されています。治療ブースは、通常型ベッドの他に、リクライニングチェアがあり、小児がん症例などに使用する準個室を備えています。治療中は、ロールスクリーンで間仕切りし、少し狭いですが家族の付き添いも可能です。独立した空調設備で室温環境は保たれ、各治療ブースに液晶テレビが設置してあります。トイレは2か所あり、そのうち1か所は多機能専用トイレです。

- 1 **来院・通院治療センターでの採血**
検査結果がでるまで40～60分程度の時間を要するため、診察時間の1時間前に来院してくださるとスムーズです。
採血前に体温・血圧・酸素飽和度・体重を測定します。
- 2 **各診療科での医師診察**
診察では、当日の体調や自宅での様子をお伝えください。
検査結果と診察内容により、担当医が本日の治療が可能か判断します。
- 3 **通院治療センターの受付・入室**
治療ブースの準備が整い次第ご案内いたします。
医師の診察後、調剤を開始するため薬剤が届くまで少々お時間をいただきます。
- 4 **治療開始**
初めての治療の際は、治療内容や副作用の説明をさせていただきます。
- 5 **治療終了・会計・院外薬局・帰宅**

リンパ浮腫ケア外来

リンパ浮腫は、リンパ管系の損傷や閉塞により体液が正常に流れないために起こるむくみのことです。乳がん・婦人科がん・泌尿器がんの治療後など手術や放射線治療によってリンパ液の流れが悪くなったときに起こります。浮腫の出現後早い時期から治療を始め、悪化を防ぐことが重要です。

外来では、触診や視診で浮腫のある部位に炎症がないか確認したり、浮腫の範囲を調べたり、複合的理学療法（①スキンケア、②用手的リンパドレナージ、③圧迫療法、④圧迫下での運動療法、⑤セルフケア・日常生活指導）を行ったり、弾性着衣の購入サポートを行っています。

リンパ浮腫ケア外来予約の流れ

- ① リンパ浮腫発症時の受診診療科
形成外科または各診療科（乳腺科・婦人科・泌尿器科などにて担当医師が診察）
- ② 各診療科医師によるリンパ浮腫の確定診断・複合的理学療法適応の判断
- ③ 複合的理学療法に適応となった方
医師がリンパ浮腫ケア外来依頼書を入力（受診予約）、同意書の説明、患者サインを記載してもらう
- ④ リンパ浮腫外来受診
医療リンパドレナージセラピストによる複合的理学療法・セルフケア指導を実施

希望を確認し、次回の外来予約を行います。セルフケア・日常生活指導の継続を支援します

※ケア外来は看護師（国立リンパドレナージセラピスト）のみで行います

対 象	がんに伴うリンパ浮腫を抱える方 ※がん治療によってリンパ浮腫を発症した方です。
外来診察日	毎週火曜日・木曜日 13:00～17:00 完全予約制（自費診療） ※自費診療ですので、診療日と同日の予約はできません。
費 用	初回（1時間30分）5,500円 2回目以降（1時間）4,400円
お問合せ	受診には形成外科または各診療科医師による診察とリンパ浮腫の確定診断が必要です。受診を希望される場合は、まず主治医にご相談ください。

小児がん経験者のための 長期フォローアップ外来

近年「小児がん」の治療成績は向上し、多くの方が病気を克服しています。しかし、治療後も様々な問題に直面することは少なくありません。身体的な問題だけではなく心理的・社会的問題もあり「誰に相談してよいかわからない」と悩まれている方もいます。そこで、福井大学病院では小児がん経験者の方が抱える様々な問題に対応できるよう「長期フォローアップ外来」を2021年4月から開設しました。対象は「過去に小児がん治療を受けた方」で、成人の方でも受診可能です。当院で治療を受け通院中の患者さんだけではなく、通院が途切れた方や他院での治療歴がある方でも受診は可能ですが、可能な限り治療を受けた病院で治療内容が確認できる紹介状を作成してもらってください。紹介状の準備が難しい場合には、直接お話を伺うこともできますのでご相談ください。長期フォローアップ外来では、担当看護師による問診、小児がん専門医による診察のうえ関連する診療科や関連部署との連携を図り、総合的なフォローを行います。また、小児期に治療を受けた患者さんの中には、ご自身の病気や晩期障害について説明されていても覚えていない場合があります。長期フォローアップ外来では、患者さん自身の成長と共に、自分の病気の事、治療内容、晩期障害について理解を深めていただけるように、段階的に説明を繰り返していくようにします。治療後に困った事があればいつでも気軽にお声かけください。



対 象 過去に小児がん治療を受けた患者（他院で治療された方も対応できます）

外来診察日 毎週金曜日 13:00～17:00

生殖サポート外来

がんの治療により、子どもをつくる機能（妊よう性）が低下したり失われることがあります。男性では精巣で精子を作る機能が、女性では卵巣内の卵子の数が、低下・消失し、ご自身で子どもをもつことが難しくなるケースがあります。そこで、がん治療の後にも子どもをもつ可能性を残すため、がん治療を始める前に精子や卵子・受精卵などを保存しておく治療（妊よう性温存治療）が行われています。

当院の生殖サポート外来では、がんの治療で患者さんの妊よう性がどれくらいダメージを受けるのか検討し、最適と思われる妊よう性温存治療を提案・実践しています。

ただし、最優先すべきはがんの治療ですので、病気が進行していたり時間の余裕がなければ、妊よう性温存治療を行うことなく、直ちにがん治療をスタートしていただくこともあります。また、妊よう性温存治療はがん治療後の妊娠・出産を保証するものではありません。

対 象 将来に挙児を希望する若い世代（40歳以下）のがん患者さん

外来診察日 毎週金曜日の午後（急な対応が必要な場合は、随時お受けしています）

受診の流れ がんの治療が将来の妊よう性に影響しそうな場合、
がん治療医から受診を勧められます。

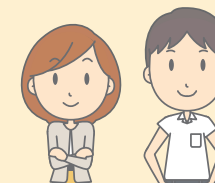
費用 治療前の相談は保険診療ですが、実際の妊よう性温存治療は自由診療になります。
妊よう性温存治療を受けられた方には、費用の一部を助成する制度があります。
詳しくは、県健康福祉部 保健予防課やがん相談支援センターへお問合せください。

●男性の生殖機能温存治療

がんの治療の前に、精子を凍結しておく精子凍結保存が一般的です。
精子を射精できない場合は、精巣から精子を採取する試みもあります。

●女性の生殖機能温存治療

がんの治療の前に、卵子や受精卵（受精卵が細胞分裂を始めたもの）、卵巣組織を凍結保存しておく方法があります。



がんゲノム外来

がんは細胞の遺伝子の異常から起こる病気です。通常の抗がん剤治療は肺がんや大腸がんなど「がんの種類」に応じた治療薬を選択しますが、がん細胞が持つ「遺伝子の異常」という面からその患者さんに合う治療薬がないかを探していきます。

がん細胞から遺伝子を抽出して検査するため、実際に患者さんのがん細胞が必要になります。各診療科で診断の際に検査で取った細胞や、手術で摘出した病変を使って検査を行います。そのため、がんゲノム外来では基本的に何か検査をすることはなく、検査についての説明をさせて頂くことが中心となります。しかし適した病変が残っていない患者さんに対しては、採血を行い血液中に含まれるがんの遺伝子を抽出して検査します。

対 象	治療法が少なくなってきたがん患者さん、 希少がん患者さん、原発不明がん患者さんなど
外来診察日	毎週火曜日 午後
費 用	440,000円(検査提出時)+120,000円(検査結果説明時)+α 3割負担の場合 約17万円程度になります。 高額療養費制度により負担は軽減されます。
お問合せ	受診を希望する場合は主治医にご相談ください。

薬剤治療



がんの薬剤治療では、がんの増殖を抑えたり、成長を遅らせたり、転移や再発を防いだりするために、単独の抗がん剤を使って治療する場合と、数種類を組み合わせる場合があります。抗がん剤は、作用の仕方により「殺細胞性の抗がん剤」、「分子標的剤」、「がん免疫治療剤」「ホルモン療法剤」の大きく4つに分類されます。

近年では、抗がん剤の進歩によって副作用として起こる症状が緩和され、副作用に対する治療も進歩してきたことから、外来で化学療法を行うことが多くなっています。副作用の種類や程度は使う抗がん剤によって異なりますが、あらかじめ予想される副作用と対処法などの正しい知識を身につけておけば、早めに対処して副作用を予防したり和らげたりすることができ、治療や副作用の不安を軽減することにもつながります。薬剤によっては食事やほかの薬の影響を受けることもあるため、治療を始める前に十分な確認が必要となります。

治療のお薬に関する不安や疑問がありましたらいつでも薬剤師に相談してください。

放射線治療

放射線治療は、患部に放射線を照射することで病気を治療する方法で、手術・薬物療法とならぶ「がんの3大治療法」の一つです。がんの治療に使われることが多いのですが、それ以外の腫瘍や血管などの病気の治療に使われることもあります。放射線治療は、病気の細胞が、正常の細胞より放射線に弱いことを利用して治療をしています。少しの量の放射線を繰り返して患部に照射することで、病気の細胞は傷ついてやがて死んでいきますが、正常な細胞は放射線の傷を修復する力が強いので生き残ります。放射線治療は、手術と同様に病気のある部分だけを治療します。からだへの負担が少ないので、ご年配の患者さんや合併症のために他の治療が難しい方でも治療を検討することができます。



当院では、からだの外から放射線をあてる外部放射線治療と、中から放射線をあてる小線源治療を主に行っており、放射線治療医が治療と副作用などの説明をします。治療を入院または通院で行うことについては、放射線の照射方法や併用する治療法、日程等を考慮して、主治医と放射線治療医が相談を行いご提案します。

副作用への看護ケア・セルフケア方法などは、パンフレットを使用しながら、放射線治療専従看護師を中心に説明を行います。また、院内に所属するがん放射線療法看護認定看護師や緩和ケアチームとも連携して、様々なことに対応します。わからないことや気になることがありましたら、放射線治療スタッフまでお尋ね下さい。

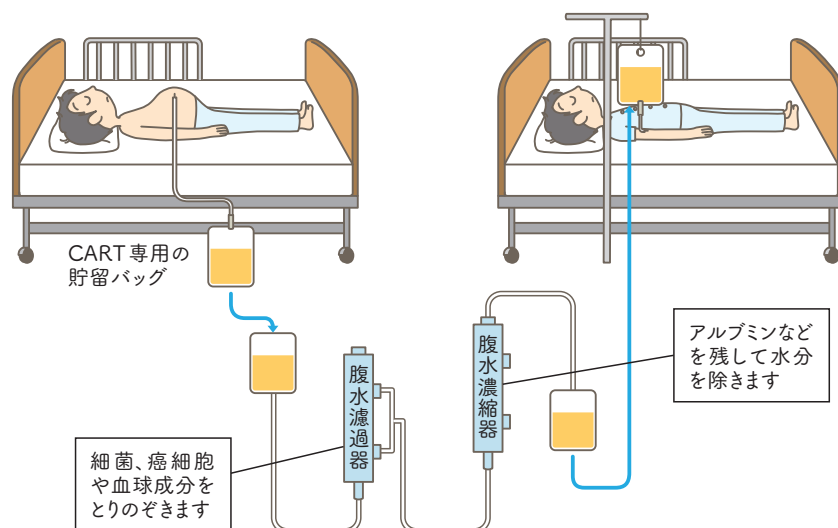
引用文献：公益法人日本放射線腫瘍学会 パンフレット「放射線治療を受けられる方へ」
P2(2021年4月発行) <https://www.jastro.or.jp/customer/ordinary/202208.pdf>

がん性腹水に対する 腹水濾過濃縮再静注法(CART)について

がん患者さんは腹膜転移や栄養状態の低下などから、大量の腹水が貯まることがあります。腹部が膨満することで、圧迫感や食欲低下、呼吸困難、尿量減少などが生じます。利尿剤などの薬による治療でも軽減できない場合、腹水を穿刺排液する方法が選ばれることがあります。水分だけでなくアルブミンなどの栄養分を大量に奪われてしまいます。これを防ぐために、抜き出した腹水を濾過してがん細胞などの有害成分を除去し、アルブミンなどの栄養分のみ濃縮して、輸血のように再静注して体に戻す治療をCARTといいます。

CARTのメリットは栄養状態を低下させずに腹満を軽減させることが出来ることです。デメリットは再静注の際に発熱などを認める方がいることや濃縮と再静注に半日以上必要なことなどです。

治療には予約が必要です。1日かけて行いますので入院治療が原則で、通常は2週に2回、最短で週1回行うことが出来ます。まずは、主治医の先生やがん診療推進センターにお問い合わせください。



がん治療と栄養

がん治療をされている患者さんの多くに体重減少や食欲不振を認めます。体重減少の原因として、がんによる通過障害や化学療法などの副作用による食事量の減少によって痩せるものと、がん自体が出す物質によって代謝異常が生じて骨格筋や脂肪が分解して痩せるものがあります。後者は「がん悪液質」と言われています。食べていても痩せてしまうのが悪液質の状態です。両方の状態を抱えていることもあります。

このような状態が続くと、栄養状態は次第に悪化し、QOL(生活の質)の低下だけでなく、免疫機能の低下や感染リスクも高まります。また、更なる副作用の悪化を招き、状態によっては治療を続けることが困難となる場合もあります。

そのため、食事の工夫や栄養剤を併用することで、できる限り栄養状態を維持し、体重や骨格筋量を減らさないようにすることが治療を継続する上でとても重要なことです。

最近、体調の変化により
食事が思うように摂れなくなった

栄養補助食品を
紹介して欲しい

今の食事量で
栄養が足りているのか心配

など、食事に関する
お悩みは
ございませんか？



そんな患者さんの悩みや心配事に対し、当院では管理栄養士による栄養相談を実施しております。患者さんの症状や体調変化に合わせた食事の注意点や栄養の摂り方についてのアドバイスを行います。また、定期的に体成分を測定し、骨格筋量を確認していく事も可能です。ご希望の方は、ぜひ診察時に主治医または看護師にお声かけ下さい。

日 時 毎週月曜日～金曜日(祝日は除く) 9:00～17:00

お問合せ 主治医または看護師にご相談ください。

memo

20

院内 Map

B棟 1F



がん相談支援センター

対応日時 毎週月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 8:30～17:00

お問合せ がん相談支援センター ☎0776-61-3111(代表)
※「がん相談をお願いします」とお伝えください

無料・予約不要

直接お越しいただいても
かまいません

福井大学医学部附属病院

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

☎0776-61-3111

休診日 / 土曜・日曜・祝日・年末年始